

第2章

令和2年度の取組概要

第2章 令和2年度の取組概要

1. 本学教員に対する本プロジェクトの取組

(1) FD 集会（令和2年10月29日）

「教職実践演習における授業の実践例」

【企画の趣旨】

「教職実践演習」（必修科目）は教職課程の総仕上げとして位置付けられ、本学ではその授業内容・授業計画は各専攻に任せられ、それぞれ特徴ある授業が実践されています。4年生後期に実施される「教職実践演習」は、教員の所属が異なると一体どのような授業が実践されているのかを知る機会はほとんどありません。

今回、3つの講座に所属する教員をお招きし「教職実践演習」での授業実践例を報告して頂きたいと思っています。特に、「教職実践演習」においてAL的要素を含む授業形態（模擬授業やグループディスカッションなど）の実践方法、学生の指導方法、評価方法などについて報告して頂きます。本FD集会を通して、本学教員の授業改善につながることを期待しております。

【実施概要】

開催日：令和2年10月29日（木）

開催時刻：15:20～16:30

場所：愛知教育大学 次世代教育イノベーション棟

開催方法：対面方式、Teamsでのオンライン方式

参加対象：本学教員・事務職員

集会タイトル：「教職実践演習における授業の実践例」



【プログラム】

時刻	時間	項目（タイトル）	担当者
15:00～		受付開始	
			司会：伊東先生
15:20～15:25	5分	開会あいさつ	野田学長
15:25～15:30	5分	趣旨説明	司会：伊東先生
		各授業担当者からの報告	
15:30～15:45	15分	授業実践例①	鈴木先生
15:45～16:00	15分	授業実践例②	上野先生
16:00～16:15	15分	授業実践例③	建内先生
16:15～16:25	10分	質疑応答	司会：伊東先生
16:25～16:30	5分	閉会あいさつ	杉浦教職キャリアセンター長

【開催報告】

2020年10月29日 全学FD集会「教職実践演習における授業の実践例」を開催しました。

10月29日（木）、教職キャリアセンター主催の全学FD集会「教職実践演習における授業の実践例」を開催しました。対面とオンラインの両形式で開催され、教職員55人が参加しました。

「教職実践演習」は4年生の後期に実施される教員免許法上の必修科目で、教職課程の総仕上げとして位置づけられています。本学では、第1回、2回、4回、6回を学校教育講座が共通部分として受け持ち、第3回、5回、7～15回を各教育単位が受け持っています。この各教育単位が受け持つ回の授業内容・授業計画はそれぞれが企画しており、特徴のある授業が実践されています。このFD集会は、他所属の教員がどのような授業を行っているかを知り、授業改善に役立てるために計画されました。

授業実践例では保健体育講座 鈴木一成准教授、理科教育講座 上野裕則准教授、外国語教育講座 建内高昭教授の3人より報告されました。鈴木准教授からは、附属学校とインターネットで接続しての授業観察や、聾学校の陸上競技大会の大会運営を実施した事例が報告されました。また、上野准教授と建内教授からは授業観察と模擬授業の実践事例について報告され、授業観察後に授業を行った先生方と協議会を行ったり、学生が授業構想を練ってから参観することで実際の授業構成・ねらいの違いに気づくようにしたりするなど、学生への教育効果を高めるように工夫していました。授業実践の方法はそれぞれ異なっていましたが、総仕上げの位置づけのこの授業について、報告者3人とも「これが終わりではなく、これからがはじまり」と述べたことが印象的でした。



対面参加の会場（次世代教育イノベーション棟）の様子



授業実践例の報告を行った鈴木准教授（左）、上野准教授（中）、建内教授（右）

授業改善につながることが期待される、有意義なFD集会となりました。

FD集会の様子

【司会】 皆さん、こんにちは。

時間になりましたので、始めさせていただきます。

本日は、お忙しい中、教職キャリアセンター主催のFD集会にお集まりくださり、誠にありがとうございます。また、オンラインで参加している皆さんもありがとうございます。

本日司会をさせていただきます教職キャリアセンターFD部門ALプロジェクトの伊東と申します。よろしくお願ひいたします。

今回、こういう御時世ですので、一応マスクをしてお話しさせていただきます。

少しちょっと説明させていただきますと、ALプロジェクト、本プロジェクトは、本学におけるAL授業の支援と拡充を目指して、ICT機器の貸出しシステム等、本学にAL授業を広めていきたいというのが目標でございます。

FDでは、本学の教員がALを含めた授業をどう実践したらいいのか、また学生がAL授業とはどういうものなのかということを、それにふさわしい講師をお呼びしてFDを企画しています。前期中は新型コロナウイルスの影響で全く開催できませんでしたが、後期によく主催することができました。今回のFDも実は3月に企画されていたものでして、ようやく開催することができました。

今回は、表題にありますとおり教職実践演習、2013年から2014年後期に実施されているものです。ALを含む授業例を本学の3人の教員の方々から報告していただきます。趣旨説明については後ほどさせていただきます。

Teamで参加の皆様に御案内いたします。御自身のマイク及びカメラはオフにして御参加ください。本日の資料は、全学FD集会チームページ内の上部ファイルタブ内に保存しております。講演者への質問がある場合は、会議チャットより講演時間中に御質問ください。最後の質疑応答の時間の中で、可能な限り回答させていただきます。

それでは初めに、開会の挨拶を野田学長よりお願ひいたします。

【愛知教育大学長（野田敦敬氏）】 皆さん、こんにちは。

昨日SDGsのFD講演会をしましたけれども、昨日も大変たくさん的人がオンラインで参加をしていただいたと思います。連日になりますけれども、よろしくお願ひいたします。今日も会場は十数名ですけれども、きっと多くの方々が研究室等からつながっていることだと思います。

このALプロジェクトのほうは、私も数年、今、司会の伊東先生と一緒に取り組んできたので、大変思い入れが強いところがあります。

さて、今日お願いしております教職実践演習は、平野副学長を中心[newline]に新しいカリキュラムをつくっていただいておるんですけども、右上のところの薄紫色のほうですね、教育実践開発科目群という中に来年の1年生からは入ることになります。新たに科目群をつくって、今度のカリキュラム改革の目玉になるところでもあります。

この教職実践演習は、去年見直しを検討いたしまして、キャリア教育と結びつけてやれないかということで、4月、要するに志願票を出す前に1回、そして隣接校種実習が終わった後、いよいよ採用試験まで1か月というところで1回、そして9月にもう一度というふうに、そんな計画を立ててスタートしようと思ったんですけども、昨今の事情で今年も後期からということになりました。またその辺り見直さなかんなとは思っています。

今日は優れた実践事例を鈴木先生、上野先生、建内先生から聞けるということで、大変楽しみにしてまいりました。どうぞよろしくお願ひいたします。

【司会】 それでは、今回のFD集会の趣旨説明をさせていただきます。

先ほど野田学長よりもいろいろありましたけれども、かつては3年生の後期に実施されていました総合演習ですね、2013年から教職実践演習と名前を変えて4年生の後期に実施されて今年で8年目になります。先週の月曜日からもう既

に始まっているところもあると思います。

教職実践演習は、教職課程の総仕上げとして位置づけられており、本学ではその授業内容・計画は各講座、各教育単位に任され、それぞれ独自で特徴ある授業が実践されています。それによって、教員の所属が異なると一体どういう授業が行われているのかを知る機会というのは、授業公開を除いてはほとんどありません。私が知る限り、本学教員の教職実践演習の授業例はFDで行われていないと思います。

今回、3つの講座に所属する教員に、講演順に保健体育講座の鈴木先生、理科教育講座の上野先生、外国語教育講座の建内先生に実践例を報告していただきます。

特に教職実践演習においてアクティブ・ラーニング的な要素を含む授業形態である模擬授業やグループディスカッションなどの実践方法、それから学生への指導方法、評価方法などについて報告していただきます。

また、学生のICTを活用する能力を確認するような授業を実践していれば、それについても報告していただく予定です。

各先生方の報告は15分となります。その後、まとめて質疑応答の時間を設けていますので、よろしくお願ひいたします。

それから、ごめんなさい、もう一点あります。講演を始める前に1点だけ御容赦いただきたいことがあります。本FD集会は録画、録音をしております。終了後は報告書としてまとめさせていただきます。その際、質疑応答の内容を記載させていただきますが、発言者の個人の名前が出ることはありませんので、どうぞ御遠慮なく、たくさんの質問、御意見をよろしくお願ひいたします。

それではまず最初に、鈴木先生の講演をよろしくお願ひいたします。

「教職実践演習における授業の実践例」

講師：鈴木 一成（保健体育講座）

皆さん、こんにちは。

保健体育講座の鈴木一成です。

私たち保健体育講座は、私ともう一人、上原三十三先生と一緒に教職実践演習をやってまいりました。今日は、昨今のコロナの前の昨年度の実践を紹介させていただきたいというふうに思っています。

それから、それがための資料をこれまで取ってきたわけではありませんので、ちょっと若干資料不足のところもありますけれども、御報告させていただきたいと思います。よろしくお願ひします。

まず、教職実践演習は複数の先生でやらせていただいているので、できるだけそのメリットを生かしたいなということで、最初、前半部分は、学校教育講座の先生方の話を受けて、持ち帰って各講座で議論を深めていくという、この前半を受けた形の報告と、もう一個は単独で8回から15回は講座に委ねていただいているので、そのこちらの発表と報告とこちらの報告の2部構成でちょっと報告させていただきたいと思います。

まずテーマを受けてると、共通棟の広い部屋で学校教育講座の先生方からテーマをいただいて、その後共通棟に帰っていくんですけども、ちょっとハウツー的なことになるかもしれません、全体で話すとやっぱり薄まってしまったりとか、誰も発言がないところがあるので、ペアだったり、トリオだったり、グループだったり、ずっと模索してきたんですけども、一番よかったなと思うのは、上原先生と私とある学生が3人で立ち話のような話をしながら、それをリスナーが聞いていて参加するという、よく情報番組なんかは司会者がコメンテーターに振って会話をしているところに視聴者がそれを聞いていると、視聴者参加型みたいな感じで。上原先生は動きの中での同感とかコツとか勘の世界にすごくたけていますので、例えば具体的な教職の実践の場面のときに運動指導で困る、そんなときに上原先生がとある一言を言うと、私は実践でいろいろやらせていただいた経験もありますので、上原先生に投げかけたり、そうしたら学生がうまくいかない機会、そんな形で情報番組に学ぶような中身で、フィッシュボールと書きましたけれども、金魚鉢なんですが、中央で対話している話を周りが聞いていて、その都度その都度参加を代わるという方式です。これなんかは、2回目、4回目、6回目で学校教育講座のお話を受けた後、自由な雰囲気の中でディスカッションできたので、コロナ禍で対面の中での教職実践演習では、この情報番組に学ぶフィッシュボールというやり方をちょっとやってみたいなというふうには思っています。

続きまして、その実践のときの話の中身で、努めて意識していることは、教職実践演習が、先ほどの図にあったように、ほかの授業との関連を意図的につくりたいなというふうに思っております。例えば私であれば教科教育の授業をいただいておりますので、それを結びつけるというんですかね、星の輝きと星の輝きを結びつけると星座になるというようなイメージで、それぞれの経験やそれぞれの授業やそれぞれのいろんな学生たちが持っているほかの授業との輝きをあえてこの教職実践演習で結んでみる機会を持ちたいなというふうには、うまくいっているかどうかはちょっと、うまくいっていないことのほうが多いんですが、でもあの授業のときにこんなことをやったよねとか、あの授業でこんなことがあったよねということで結びつきを強めたいというふうに思っています。

これは今の4年生が2年生のときの授業なんですけれども、体育講座では、体育の講義室が附属名古屋小学校の体育館、中学校の体育館と結べている環境がありますので、それを見ながらリアルタイムでこういう機会をやったという授業も想起しながら、ICT活用ではないですけれども、ここで扱ったいろんなICT機器の指導法なども思い出して、つまりほかの授業が単独で完結しないように、この教職実践演習がプラットフォーム的な役割でいろんな授業と結びつけら

れるような、とりわけ体育授業の中では幾つか内容的なこともありますけれども、それを意図的に結びつけられたらなというふうに思っています。

例えば、これは今4年生が2年生のときの体育科教育Bの私の授業なんですけれども、当時は2008年だったんですけれども、附属名古屋中学校で小学校5年生と中学校2年生の体育の授業、リアルタイムで私たちはこれを見て、その後、協議会、協議会というわけじゃないですけれども、そういう取組もしたと。こちらは学生の声なんですけれども、こんな声を少し教職実践演習、今年ですけれども、4年生の子たちに、2年生のときにやったよねなんていう話が出てくれば、こんな話題も出させていただけたらなと思っています。

特に印象的だったのは、授業が終わった後に少し議論の時間、議論というと仰々しいですけれども、授業者と子供たちが残っていたので、「何か質問ありますか」とかと言ったら、附属名古屋小学校の子たちが大きく手を挙げて「はーい」とかと言って、学生に向かって「どんな先生になりたいですか」と質問されたんですね。その瞬間、学生たちが結構背筋が伸びた感じというか、そうなると、もしかしたらですけれども子供たちに育てられている瞬間もあるかなと。そうしたら、1人の学生が気をつけの姿勢になって「いい授業ができる教師になりたいです」とかと言って1こま終わって、そうしたらしばらく時間を置いて拍手が湧いたんですね、パチパチパチと。子供たちなりに歓迎してくれたみたいな。ちょっと照れくさそうな場面だったんですけども、2年前そんなことがあったぞなんていうことを今年の教職実践演習なんかでもお話しできたらなと。

体育講座では、それぞれ1年生から4年生に至って、それぞれカリキュラムの関係で振り分けられていますけれども、時々のエピソードなんかも交えて、教職の魅力とか、やりがいとか、そういったこと、あるいはすぐには学校の教育に携わらなくても教育ということを考えたときに、この愛教大での学びが単独に終わらずに、光と光が結ばれて少し星座というようなイメージで、そうするとそこには物語が生まれたり、意味が生まれたりするので、そんな教職実践演習になればなというふうに思って、最初の教育講座の受けた授業はこんなふうに展開をしてきました。

あとは、ほかにもゼミで、これは鈴木英樹先生のゼミの子たちなんですけど、ゼミで見た話とか、左側にあるのは、これは360度カメラで授業実践をやった、こういう幾つか授業単独ではないようなゼミの取組などもお聞きして、教職実践演習の中で想起させたり、つなげたりすることができたらなというふうに思っています。

続きまして、これが大きなところなんですけれども、8回から15回、かなりの時間をいただいてやってきましたけれども、上に経験、振り返り、教訓、応用するという経験学習のサイクルがあって、この中で幾つか壁があると。

1つ目は、振り返る壁、これは、今日も学生たちに振り返りシートを配りましたけれども、共通で自己評価表1、そして評価2というのがありますので、これも使いながら振り返る機会はあるであろうと。

続いて、そこで教訓を引き出す、これはなかなか学生たちだけでは難しいところもあるので、この学校教育講座の先生方が再度テーマを設けてくださっているという、こここのところが2回、4回、6回を受けた3回、5回、7回が教訓を引き出しているところかなというふうに思っています。

次に、その引き出した教訓を応用する場面、模擬授業とか演習とかいろいろ考えてきたんですけれども、体育の場合は本当の実践の場面にやっぱり立ち向かって、そこから得ることがあるのではないかということで、2015年では全国聾学校の陸上大会のボランティアに参加したり、それから2016年から昨年度まで知立市の生涯学習スポーツ課で、これは低学年や幼少期の子たちがおうちの人と一緒にやる、午前中で終わるパパ・ママと一緒に楽しく体力づくり教室というのがありますので、それに学生がプランを立てて、かなり練って、実際にやってみて、うまくいったりいかなかつたりという取組をしました。それから、名古屋市の生涯学習課の土曜学習、これも午前中主催でありますので、そこに学生が考えたプランでやってみる。あとは、附属の学校で運動会とか泊を伴う行事なども積極的に参加していただいてやってきたというところです。

例えば2015年の聾学校の陸上競技大会では、3日間、10月9、10、11でやってきたんですけれども、体育の学生たちは

プレーヤーだったり競技者が多いんですけども、その大会運営に関わって、するだけじゃなくて、見る、支える、知るということも触れられたなと思いますし、それからスタジアムを運営しているウエーブスタジアムの刈谷の方々が支えていることを知ったりとか、あるいは取りまとめてくださっていた豊橋の聾学校の先生方との、そういう先生方とのつながりなんかもありましたし、もちろん競技のサポートなので、耳が不自由ですので、例えば後ろから呼んでも当然分からないから、子供たちに声をかけるときには少しオーバーアクションで前からかけてもらうといいよというような、特別支援の先生方から子供たちに接する方法なども聞いてやってきたということです。ただ、これが毎年続かないで、このときはこの取組をしたということです。

見えないとか見えにくい、オリンピックとかパラリンピックが延期になっていますけれども、彼らが学んだことが社会と接点があるといいなと常々思ったときに、こういう経験が全力プレーを、これまで自分がしてきたんだけど、改めて支えられてきた機会もあるかなという、立場を変えてみると見えてくることもあるかなというのは、2015年の取組でした。

それから、パパ・ママと一緒に楽しく体力づくり教室というのは、全10回ですね、おおよそ9月から12月のところで、知立市の学校に、生涯学習課の方々と打合せをしつつ、各回、マット遊びとかボール遊びとかコーナーを設けて、それで担当を、黒塗りのところは学生の名前が入ります。

担当が決まつたら、真ん中ですけれども、実際に簡単な指導案っぽいようなことを立てます。これは、対象が小さい子だったり、初めて会う飛び込み授業的な感じなので、立てたとおりにはなかなかいかないんですが、何度も何度も学生たちが意見を練ったりとか、中では、ＩＣＴ機器の活用じゃないですかけれども、自分たちで動画を撮ってみて、それでちょっとシェアしているとか、そんなこともあります。

最後は、やりっ放しにしないで報告書ということで、例えば学生のコメントを見てみると、悔しくて抜けて泣いてしまう子がいて、多分このときにどうしたらいいか分からなかった対人関係のところもあるかなと思いますけれども、どうしたらうまく投げられるかと一緒に考えたり、こうやって投げたらいいんじゃないかとアドバイスをしたら、ドッジボールに戻り、笑顔で楽しんでくれたのが印象的だったという、ここをどう読み解くかというところもあるかもしれません、彼らが感じた印象に残ったこと、それから今後努力すべきこと、これなんかもシェアしながら、まさに実践現場での経験を振り返って、教訓を導いて、応用して、またさらにそこから教訓めいたことを見ていくということをやってきました。

今年は残念ながらこの取組は中止となってできなかったんですけども、次年度以降、対策をして続けられたらなというふうには思っています。

これが上原先生が撮ってくださった写真なんですけれども、子供と一緒に関わったりする場面ですね。

この関わっている場面の中で、ちょっと見にくいんですけども、感想がずっと書いてあって、ここのところ、3ブロック目ですかね、参加してくれたある親子の話を聞きましたと。姉妹2人とお母さんで参加した親子が、ある技ができたときに称賛していたら、その子が多分「上手だったね」とか言ってくれたんでしょうかね。そのお母さんから、上のお子さんが運動が苦手で、学校では周りの子についていけず不登校になっているという話を聞きました。多分話してくれたんでしょうかね。技ができたその子はすごくうれしそうで、お母さんも久しぶりに子供の運動で得た満足げな表情に涙を流していました。子供に運動を好きになってほしいと参加を決めたお母さんの気持ちを感じ、お子さんにもこれをきっかけに自分に自信がついて学校に復帰してほしいという思いが湧きましたということですね。

この参加者がどういういきさつかというのは伏せてある状態なんですけれども、こういうリアリティのある、まさに本当のところを見たり、それからちょっとした自分の投げかけた言葉がきっかけで人が喜んでくれる経験なんていうのは、まさにかけがえのない経験だと思いますし、多分お母さんがいろんなことを話してくれたいきさつの背景とか、そんなことも教職実践演習の中で彼らが学んでいることかなというふうには思います。たかだか運動、されど運動、運動の捉え直しもこういう機会で捉えてもらえたならというふうには思っています。

最後に、今日の、実際もう15分になりますので、情報教育に学ぶフィッシュボール、それからＩＣＴ利活用、なかなか具体的にこういう取り上げてやっていることはないんですけども、そういう場面を取り上げて授業と授業をつないでみたいなと思います。

そして最後に、実践することというところにすごくやっぱり重きがあるかなと思います。学生たちの学びを社会との価値を共有する形、社会と接点を持ちながら実践することと。これで完結ではなくて、実は実践することは、応用からまた原理原則に帰っていくという、原理原則からまた応用していく、まさにこの往還をさせる考え方の中でいったら、教職実践演習はまさに応用から大切な基礎を学んでいくというスタイルかなというふうには思います。

ちょっと早口になりました申し訳ございませんでした。以上です。ありがとうございました。（拍手）

【司会】 ありがとうございました。

引き続いて、上野先生、よろしくお願ひいたします。

「教職実践演習における授業の実践例～分子機能生命科学専攻の例～」

講師：上野 裕則（理科教育講座）

理科教育講座の上野と申します。よろしくお願ひします。

この中では多分私が一番ここに来て年月が浅いかなと思いますが、皆さん、どうぞよろしくお願ひします。

教職実践演習における授業の実践例ということで始めさせてもらいますけれども、今日の話は、ちょっと去年までの僕が担当していた自然科学コースのほうで教職実践演習の担当をしていましたので、そちらのほうの話がメインになってしまいますが、よろしくお願ひします。

今日の話ですけれども、授業目標と授業方法、ここはシラバスの内容そのままになってしまいますが、メインは教育現場での授業観察というところがメインかなと思います。その後の授業観察を実際に4年生に見てもらって、それを基にして、じゃあ僕たちはどういう授業をしたいかというのを皆さん学生たちで考えてもらって、それで一回指導案を作ってもらいます。その指導案をただ作るだけじゃなくて、学生同士で見せ合って、学生同士で添削してもらうと。それで、指導案を基に模擬授業をして、その模擬授業の後も学生同士でここはよかった、ここは悪かったという報告をし合って、反省会みたいなのをして、4年生が終わって先生になっていくという流れでやっております。最後、ＩＣＴを活用しようということで、今後の、今、感染症の問題もありますし、ちょっとこここのところは、実は実践ではやっていないんですけれども、今後こうすることをするといいかなという話をさせていただきたいかなと思います。

まず授業目標ですけれども、まずは教員になる一歩手前ということで、教職実践演習では、もう一回、教員の使命とか、あと自発的・積極的に自己の課題を認識するというところが大事かなと思います。なかなか急に先生になってうまくやっていけるかどうか分からぬわけですし、自分の得意なところ、不得意なところがあるかなと思います。ですので、まずは個々が課題をそこで見つけて、自分がどういうところがうまくないのか、じゃあどうやったら改善できるかというのを最後にみんなで考えてもらって、それを模擬授業で実践してもらうというのが一番いいかなということで、このような目標を立てています。

また、ほかの教員とか保護者、この地域住民というのは、ちょっとあまり実践していないんですけども、基本的には対人関係能力、これは学校に行って、その現場の先生方とコミュニケーションを取るというのがありますし、また現場の生徒たちと触れ合うことによって、もう一回学校現場での対人関係能力というのを磨いてもらいます。

現場に行きますので、適切な指導に基づく学級経営の基礎、これも現場の先生に教えてもらいながら進めていっています。具体的には、授業観察をした後に必ず協議会というのをやらせてもらって、授業が終わった直後に、先生にちょっと無理を言って時間を取ってもらって、質問したり、なぜここでこういう指導をしたのかというのを学生と協議してもらう時間というのを設けました。これで、じゃあどうやって学級経営しているのかというのも学んでいってもらっています。

最後は、やっぱり教科内容、理科ですとやっぱり教科の内容、実験の手技とともに含めて的確な指導力をつけもらいたいなという希望もありますので、この辺のことをメインに目標にしてやってきました。

授業計画・方法ですが、ここに4つまとめてみました。それぞれ、使命感や責任感、これは学校の見学、授業見学を通して学んでもらう。社会的対人関係能力、これも繰り返しになりますが、学校見学、または模擬授業で学生同士が話し合いをすることによってコミュニケーション能力を高めてもらおうということです。生徒理解、学級経営、これは実際に学校現場に行って見させてもらう。また、教科内容の的確な指導、これは模擬授業で実践的に行うということで、基本的には学校で見学して、その内容を見て、自分で得意な単元でいいので指導案と模擬授業をしてみるというところで授業のほうを進めていきました。

この教職実践演習なんですけれども、基本的には学校教育の人と、あと各専攻で分かれてある共通の部分があって、こ

この部分はほとんどどの教育単位もあまり変わらないかなと思うんですけれども、私たち理科教育の分子機能生命科学専攻では、この授業観察というのを大きく3つやりました。自然科学コースでしたので、高校の先生になりたいという人が結構多かったわけですね。なので、高校2回、あと中学校に行かせてもらって、それぞれの活動を見させてもらったり、授業を観察したりさせてもらいました。

特に半田高校はSSHの指定校にずっとなっているということで、課題研究等、活発に行っていました。ですので、その現場で、今、学校の現場でどういうことが行われているのか、実際の座学の授業だけじゃなくて、課題研究って非常に大事になっています。ですので、この課題研究を中心に半田高校に2回行って見させてもらう。

また、雁が音中学校は、愛教大の出身の先生が非常に活発に理科の授業をされていまして、それをお願いして、毎年授業を見させてもらっていました。

この授業観察を通して、じゃあ自分はどういう授業をしたいか、生徒にどういうことを教えたいかというのを指導案を作ってもらうと。ただ自分で指導案を作っただけではやっぱり、繰り返しになりますけれども、自己満足で終わってしまいますので、これも添削をします。添削をするときには、なるべく大学の先生が何か言うんじゃなくて学生同士で添削し合うと。そのことによって、指導力を身につけたりとか、あと、ほかの人がどういう考えなのかという対人関係、コミュニケーションを増やすという目的で、なるべく生徒間で添削し合うというのに力を入れてやっておりました。ここにも書いてありますように、指導案を作って、生徒間で添削すると。

それで、最終バージョンを作ったら、このとおり、じゃあ僕はちゃんと模擬授業ができるのかどうかというので、模擬授業をしてもらいます。一生懸命作った指導案で添削もしてやったものをじゃあ実際に自分はできるのかどうかというのを模擬授業してもらって、その後反省会をするわけですけど、大抵の場合、この模擬授業、うまくいかないですね。教育実習も経験して、さらにたくさんの現場も見ても、なかなか自分でやろうとすると思うとおりにいかない。じゃあ、何で思うとおりにいかないのかというのをその後の反省会で反省してもらって、時には何か泣いちやう学生もいるぐらいの結構、予想はしていなかったんですけど、学生は結構熱く授業のほうを進めていってくれました。

これが実際の、これは半田高校の様子です。普通の授業ももちろん見させてもらうんですけども、理科というとやっぱり自分で手で動かして実験するというのは非常に大事で、半田高校ではこの探究活動というのを力を入れてやられていました。これからは高校でもこのような探究活動というのが非常に大事になってくるということで、週1回探究の時間を設けて、生徒たちが自分で考えたテーマで、1時間ぐらいなんですけれども、実験を行うと。

半田高校の先生たちに言われたのは、ぜひ大学の学生に中へ入ってもらって、一緒に実験をしたりとか、ここをこうしたらいいよという改善をしてみてくださいと。そうすることによって、生徒とのコミュニケーションやどういうことを教えたらいいかというのもうちの学生も非常に勉強になるということで、探究活動で生徒が研究を行って、学生が気づいた点、改善点とかを改善して指導するというところをやらせてもらいました。

この探究活動の内容は、知多地区生徒探究発表会というので、毎年、知多地区的高校生が一堂に会して、この探究活動で自分たちが行った研究を発表する場があります。そこで発表して、ポスター発表とか、あと優秀な研究には口頭で発表する機会もあったりとかして、それをみんなで見に行ったりとかということを行いました。

もちろん、それだけじゃなくて通常の授業も見させてもらったりとかして、非常に有意義な授業観察ができたかなと思っています。

これもまた別の様子ですが、いろんなグループに分かれて、実際のところを見させてもらっています。これもそうですね。生徒たちがこういう装置を作つてというところにうちの学生が入つてもらって、一緒にコミュニケーションを取つたりとか、あと指導をするということを行いました。

これは雁が音中学校での授業観察の様子です。ここにおられる先生は愛教大の物理の出身で、毎回すごく面白い授業をもらいます。なるべく実験を伴つた授業を見させてもらおうということで、ちょうど実験をするよというタイミング

で、うちの学生たちを連れて、どういう実験をして、どういうふうに先生が指導しているのかというのを見させてもらうということをします。

実際の授業の様子を見ると、やっぱりうちの学生たちも、何でこういう授業、こういうやり取りをしたんだろうとか、どうして先生はすぐ答えを言わないんだろうとか、そういうところで疑問に思ったことをこの授業の終わりに協議会の時間を設けてもらって先生に質問すると。すぐにそれはこういうことだと教えてもらひながら、授業観察のほうを進めて見させてもらっていました。

学生の感想を見てみると、やっぱり科学的思考を鍛える授業であり、答えのない問い合わせに対して生徒は考えていき、正解を求めていく形であったという、理科で非常に大事なこういう授業を見させてもらったと、有意義であったということだと思います。

また、実験中はもちろん注意を払うというのもそうですし、机間巡回をしながら、先生が生徒にどういうふうなアドバイスをしたりとか、問い合わせをしたり、正解に導くように、どういうふうにお話をしているのかなというのを実際の現場で見させてもらうということをします。

また、アクティブ・ラーニング的な要素としましては、やっぱり生徒自身で考えて、ほかの生徒と意見交流をしながら目標に対して答えを進めて、深い理解につながっていく。

中学校でも、このようにすぐに正解を言わないで、生徒間同士で意見を言い合いながら正解に向かっていくという結構高度な授業を見させてもらって、うちの学生もすごく刺激を受けて、この刺激を受けた状態で学習指導案というのを書いてもらいます。ここはもう自分が得意なところで、自分の大好きな単元でいいから最高の授業をしてくださいといって授業計画を作ってもらいます。これもいろいろ添削が入って、それを基に授業を行うということになります。

実際の授業の様子がこれなんですけれども。

(動画視聴)

この学生は、一応今、教職大学院で大学院に残っております。去年4年生ですね。今回これは、使ってくださいということでビデオが残っていましたので、こんな感じで実践をしています。

この授業実践に関しては、分子生命なんですね。研究室ごとにやっています。なので、研究室の学生を生徒役で、実際の学生は授業を行うという感じで授業を行います。こうやって生徒役の学生とコミュニケーションを取りながら、実際の授業を想定して授業をやっている。もちろん、やってみると、なかなかうまく書けなかったりとか、何回も書き直したりとか、この後実験もするんですけど、実験もうまくいったりいかなかったりと、非常に実践的な模擬授業ができたかなと思います。

ちょっと長いので、ここで終わりにしますけれども。

ということで、この授業が終わった後に、他学生からの評価ということで、いろんな意見を言ってもらいました。結構辛口な意見が多くて、ここではちょっと時間がないので読みませんが、結構辛口なコメントで、白熱していた様子が分かっていただけるかなと思います。

今後の展望ですが、ＩＣＴをやはり活用したいということで、現在の感染症の問題もありますし、遠隔授業の必要性というのはやっぱり課題かなと思います。

ただし、各学校の回線の問題、また生徒と双方向でやり取りできるかという問題も課題としてはあるかなと思いますので、今後この辺のところが改善されて、うまく授業を進めていけるといいかなと思います。

また、i Pad等の映像とか動画教材というのは理科では非常に重要なと思いますので、この辺のことも今後踏まえて模擬授業も行つていきたいかなと思います。

ちょっと長くなりましたが、終わりになります。ありがとうございました。(拍手)

【司会】 それでは引き続いて、建内先生、よろしくお願ひいたします。

「フィールドワークを踏まえた模擬授業」

講師：建内 高昭（外国語教育講座）

お世話になります。

外国語教育講座、建内と申します。よろしくお願ひいたします。

今回、建内は、模擬授業に関して話をして欲しいということを言われましたので、模擬授業にほぼ絞った形で話を進めさせていただきます。

模擬授業に関してですけれど、学生による授業構想ということで、実際に模擬授業を中心に扱っております。

基本的には、学生さんに授業観察に行っていただきて、そのところで導入の方法、授業展開、コミュニケーション活動の工夫を考えていただくというのが第1段階、それを踏まえた上で授業を進めていくというような形で行っております。

この画面を見ていただくと、今日の話がほぼ全てなんですけれども、青い部分で、まず授業観察を行います。本年度に関しては、学校側からの要請で実際に参観できないものですから、Zoomを使ってライブでの授業配信ということを11月の後半に予定しております。

授業を見るに当たって、まず1段階目として、学生さんが自分なら教科書の該当Unitをどのように扱うかということの授業構想を立てていただき、実際に参観していただく。そこで、実際に自分が考えたものとどれくらい違うかなというようなことに気づくという授業直後の協議の場を設定する。そしてそれを実際に今度終わった後にレポート提出を行うことで振り返りをする機会を取ります。その後大学に帰ってきて、授業分析の部分では教員側とちょっと深め合うような機会を設けます。

それを踏まえた上で、今度は模擬授業ということですけれども、今回というよりも、英語では、教育実習でやった指導案を再度構成し直す、あるいは修正し直すということで授業を行ってもらい、それを振り返るというような形で進めております。

繰り返しますが、そのフィールドワークということで、授業に行く前にまずどれだけ授業構想、自分でどういう授業が立てられるかな、実際に見てどうだったかなということがまず1点目です。

その次に、やってみると実際に自分が作ったものは、学生さんのレポートによると、教科書をそのまま扱っちゃったなというようなことがよく出てきます。あるいは、実際に授業を見させていただくと、先生方が非常にスムースな英語でずっとコミュニケーションを進めていく姿などにもかなり意識が向く、あるいは英語の活動が、単なる英語だけではなくて、ほかに非常に汎用性の高いことだというようなことについても学生は見ながら理解をしていくというようなことがあります。

2つ目の段階ですが、実際に比較を終えて、学生さんたちは授業を見に行くと、大体先生の指導の仕方、あるいは生徒さんの反応、あるいは授業者の技量などについては詳しくよく見る。一方で、実際にじやあどういう手順でここは行われて、活動と活動がどうなっているのかという観点に関しては、ともすると見逃されているようなことが多いです。実際に大学に帰ってからですけれども、今この上にあるものは、ちょうど50分の授業の中で、英語の授業の本文を扱った場合に、熟達した先生が、例えばこの上の部分ですけれども、15分間の間に英文の本文を生徒さんたちが8回も読んだり聞いたりして、最後は暗唱をしていく。たった50分の授業の中で暗唱ができるような授業がある反面、学生たちが実際に授業案をつくると、15分ぐらいの同じような指導案を立てるんですけれども、4回程度もやったら十分だということで、実際に授業を行って英語をコミュニケーションにつなげていくということは、なかなかやっぱりやっているようでやれていない。

実際にうまく行う先生方は、その辺のところはきっちりできているというようなことを実際に可視化する、これはC O L Tとかいう I C Tによる分析方法ですけれども、こういう形で実際に大学に帰ってきて、もう一度そこを振り返らせると、次、学生さんたちの今度は指導案が大きく変わってきたりするというようなことで、実際に授業で見たものを今度はどうやって生かしていくかということになります。

本年度は、例年ですと毎回学校に行って授業を見させていただくんんですけど、今年は該当の学校さんがライブで配信するので、ぜひそちらでということで、学生さんが授業に参加していただくことは悪くはないんだけど、人数が多いので非常に困るということで、今年はこういう形で進めていくことになっております。

それから、今度は模擬授業はどうやってやるかということですが、繰り返しますが、教育実習でもう既に彼らが一回作ったものをもう一度まず振り返るという観点、それからもう一回自分でいろいろものを見たり、これまでに習ったことを踏まえて、もう一回加筆・修正をして、新たなアイデアを加えて、必ずその部分は赤字でさらに出して、それを実際に持ち寄って、そしてグループでディスカッションをしながら進めていくという形です。この段階で学生同士、先ほど上野先生からもありましたように、授業を進めていくというようなことで行います。

そして、ここまで行ったら、最後に学生同士で皆さん全員グループごとに発表し合った後に、最後にもう一回、グループ同士で、理解して深まったことって何なのかなと、あるいはもっと調べたいことはどんなことがあるのかな、あるいは今回とは関係ないけど気になることがあるのかなというような形で、もう一度彼らが言語化することによって、自分の指導案がもう少し客観的に見えるようになってくるというような形で進めています。

この模擬授業に関してのまとめとしましては、フィールドワークということで、授業構想を事前に学生が行い、参観授業を見た、その比較という点。それからもう一個、フィールドワークに関しては、授業分析、実際授業は見たけれども、学生がどちらかという意味が、あるいは意図が分かりづらいような部分というものをもう一度咀嚼しながら共有する点。それから、今度は実際に学生が自分の指導案を再度作り直して、そしてそれを基に発表をする。そして、最後でグループで共有をするという形を行っております。

あともう一点だけ、もし英語が特徴的だとしたら、今回ここには出していませんけれども、ホームカミングデー等を使いまして、卒業生の活躍している先輩方からの時間を取りて発表を実際に聞いてもらい、先生方と共有するような時間を設けたりはしております。

以上です。ありがとうございました。(拍手)

【司 会】 3人の先生方、ありがとうございました。

それぞれ特徴ある授業例を紹介していただきました。

それでは、質疑応答に入りたいと思います。会場のほうで、質問等、あるいはコメントがありましたらよろしくお願ひいたします。

どうでしょうか。

質疑応答部分については個人情報を含むため削除

【司 会】 それでは、閉会の挨拶を杉浦理事よりよろしくお願ひいたします。

【愛知教育大学理事・教職キャリアセンター長（杉浦慶一郎氏）】 教職キャリアセンター長を務めさせていただいております杉浦です。

本日はF D集会ということで、教職実践演習における授業の実践例ということで、鈴木先生、上野先生、建内先生のほうに発表等をしていただきました。本当にありがとうございました。

教職実践ということで、実践の場で様々な学びをしてきてもらうと。そのためのコントロールというんですか、それを先生方のほうでしていただきながらということで、やはりこれは様々なやり方があるということを見聞きしながら、自分のやっている授業を改善していくということなんだろうと思います。

その上で、なかなかほかの専攻の授業がどのように行われているかを見る機会が少なかった中で、こういう形で見ることができて、私自身は高校の数学教員だったものですから、こういう授業を大学の間に受けておけば、もうちょっとましに授業ができたに違いないと深く今反省しているところです。

また、先生方にもいろいろ教えていただきながら、自分の見識が深まっていくといいなとすごく今日は思いました。本当にすみません、皆さんそうだったと思いますけど、得るところの多かったF D集会になったんだろうと思います。3名の先生方、本当にどうもありがとうございました。

これで会を閉じたいと思います。（拍手）

【司 会】 これで全学F D集会を終わらせていただきます。ありがとうございました。

当日の配布資料

「教職実践演習における授業の実践例」

資料
1/12

教職実践演習における授業の実践例

2020.10.29 全学FD集会 イノベーション

保健体育講座 鈴木一成

学校教育講座	保健体育講座
第1回	
第2回	第3回
第4回	第5回
第6回	第7回
	第8～15回

本年度

・第1回は共通部分動画(60分), 各教育単位※(30分)にて実施
※各教育単位に分かれる際は, 教育科学の学生もしくは現代学芸課程の学生は, 各免許教科に応じたクラス等で履修する。(ただし第1回のみ教育科学の学生は教育科学として受講, 第2回からは各免許教科のクラスでの受講)

- ・第2・4・6回 (各60分) は, まなびネットで動画の視聴 (出席確認あり)
- ・第3・5・7回は, 各教育単位にて実施(各120分)
- ・第2回と第3回, 第4回と第5回, 第6回と第7回はセットの扱いで, 2限分 (60分+120分) となっており, 動画の内容をもとに各教育単位で討論等を行っていくことになります。
- ・第8～15回については, 2限分 (180分) を4週にわたって各教育単位で実施します。ただし, 集中的に行う場合などもあり, 必ず各教育単位の担当教員の指示に従ってください。

資料
2/12

第3・5・7回の実践例

① 情報番組に学ぶ・フィッシュボール

学校教育講座	保健体育講座
第1回	
第2回	第3回
第4回	第5回
第6回	第7回
	第8～15回

- 【テーマを受けて】
①ペア ②トリオ ③グループ
④情報番組に学ぶ



<https://www.bing.com/images/search?view=detailV2&cclid>



<https://www.bing.com/images/search?view=detailV2&cclid>

第3・5・7回の実践例

② constellation (例 学生のICT利活用能力の確認等)

学生のICT活用能力の確認ができる授業をしているか。

学校教育講座	保健体育講座
第1回	
第2回	第3回
第4回	第5回
第6回	第7回
	第8 - 15回



<https://www.bing.com/images/search?view=detailV2&cid=V53%2Blight&id=CD59E178E92C8C9937D71C0F2AEADC5C585DC3&thid>

2018.6.3 小5・中2の体育授業（附名中体育馆）× 学部2年M1体育科教育B（愛教大保体講義室I）



リアルタイムで授業を見れたのは本当によかったです。やはりリアルな現場や映像から学ぶことが一番私たちのためになるし、これからにつながると思った。子どもたちは、もくもくと練習していた。3回集めたが集めた後、動きが変わっている子もいたし、そうでなくて、ひたすら回っていた子もいたけど、みんな一回一回違っていて、それを教師は見なければいけないと思った。（学生A）

リアルタイムで授業を見たのは、YouTubeで動画を見るよりも更に学ぶことができ、まるで講義を受けながら教育実習をしているみたいで、2倍、3倍の効果を得られた気がする。（学生B）

大学で学んでいると、子どもはいないので、現場とは少しキヨリがあると思うけど、こうやって、子どもたちの生の姿、先生の行動をみることができてよかったです。中心的な内容を見つけることは、まだ技の方にすぐに行ってしまって、難しいけど、中心的な内容を見極めて目的をしっかりと頭に入れて、授業をみていきたいです。（学生C）

子どもたちからの質問、それは...
そのとき、学生は...



教職
実践
演習

他
ゼミ

第8－15回の実践例 ③実践することを中心として

学校教育講座

保健体育講座

第1回

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8－15回



図 松尾(2019)の「経験学習サイクルを組む3つのかべ」を参考に加筆

【テーマを受けて、応用する】

- ①2015年度
全国聾学校陸上競技大会愛知大会ボランティア
- ②2016-2019年度
知立市生涯学習スポーツ課「パパ・ママと一緒に楽しく体力づくり教室」実践者
- ③2016-2019年度名古屋市生涯学習課「土曜学習」
- ④2016-2019年度附属学校園（運動会・宿泊行事 等）

第8－15回の実践 2015年度 全国聾学校陸上競技大会愛知大会



http://www.zenroupp.com/wp-content/upoads/2017/08/52_achi.pdf



http://www.city.kariya.lg.jp/shisetsu/supotu_koen/webutsu/jamukanya/

第1日目：前日練習・監督者会議・開会式
第2日目：競技1日目
第3日目：競技2日目・閉会式

多様な関わり方
する・みる・支える・
知る



<https://toyohashi-sd.aichi-c.ed.jp/asmsho.php?page=home/index.php>

みえない・みえにくい 「全力プレー」を支える人たち



https://www.alfoto.com/a/editorial-images/features/25#special_detail_2252

第8－15回の実践 2016年度-2019年度 知立市生涯学習スポーツ課 「パパ・ママと一緒に楽しく体力づくり教室」

資料
9/12

主な指導内容	・運動遊びを中心とする多様な動きづくり ・ボール遊び、なわ物遊び、走の練習、運動遊び、マット遊び
面談	日程 (平成 10月 19 日～ 11月 30 日)

實施報告書

1 犯?犯ったこと

子どもの年齢が強く、なかなか指揮認通りに進まないことが分かった。また、子供たちが友達と一緒にわざわざ来なかったため、周囲の子どもたち同士で活動をさせるのが難しかった(子どもたちで「ヤンケン」をするなど)。ドジでは、ボール転がすことを主体でやったが、子供たちはボールを上から投げる方が好きなことが分かり、途中で指揮課題を変えることもありとした感じ。また、声を出すことが好きな子供が多く、こちら側から子供たちが声を出せる機会を提供するとき、子供たちも喜ぶことが分かった。

Ⅲ やりがいを感じたこと

子供たちが大きな声であいさつしたり、面白い、ありがとうなどと言ってくれて挨拶を考えた甲斐があったなと思った。また、最初は親が楽にいないと活動ができない、子供が歩かなかったが、親子ペアの活動の後に子供たち同士の活動を取り入れたことにより子供たちも徐々に仲良くなっていく感じが更受けられたところにやりがいを感じた。

■ 印象に残ったこと

いて元気だなと感じた。新規紙ゲームでは、親と子でコミュニケーションをとるだけではなく、他の親子と一緒に交流したり、一緒に遊ぶのがわくわくする。

たらうまく投げられるか

ドバイスをしたら、ドジョウに英國が楽しましてくれたのが印象的だった。一人の行動を記憶したり、アドバイスをするのは難いが、ために子供たちを見ることが大切である感した。

IV 今後努力すべきこと

より多くの子どもたちと触れ合い、どのような行動をとるのを予想できるようになると授業の創造がしやすく、授業の幅も広がると思った。また、子供たちはどのような動きをするか想像するのを難しく、一步間違えたら怪我をしてしまうのはと思う懼意があったため、あらかじめ危険を回避できることころは子供目線になって考えて防がなければと思った。

資料
10/12

2016年度-2019年度 知立市生涯学習スポーツ課 「パパ・ママと一緒に楽しく体力づくり教室」



知立親子教室 報告書

12月14日なわ跳び遊びを担当しました。初等教育教員養成課程保健体育選修4年の[]です。教室を終えて、報告をさせていただきます。

私が今回の指導で学んだことはその場に応じて、臨機応変な策をとるということです。指導現場の様子を見ながら、次のプランをたてるということを今後にも活かしたいです。

そう思ったのは以下の理由からです。

今回の親子教室は、複数の年齢の子どもが一緒に活動する場であり、更に親も同席するということで、子どもたちが普段の学校生活の場とは違う反応を示す可能性があつたため、そこを計画の段階で考慮しなくてはなりませんでした。これまで教育実習で経験してきたある一定の年齢の子どもを対象としたものとはその点で違っていました。更に親子教室ということで、目的も技能の向上だけでなく楽しく運動を好きになるきっかけにという要素も盛り込みました。

様々な年齢に合わせて、レベルの調整ができるように段階を用意しましたが、周りの親子ができているのを見ると更に上のレベルを目指そうとする姿が見られました。そして結局私たちが考へていた中で、最もレベルの高いものに入ったとき、その日一番できるようになるまで飽きる様子も見せず、必死に技を取り組む姿が見られたので、予定より多くの時間をそこに割くようにしました。全体を通して、これまで内容というより、なわ跳びという器具を使って遊ぶことに目が向いていた子どもが多かったよう思いましたが、この技に入って、できるように必死に取り組んだことによって、内容に集中してくれたように感じました。あとから振り返っても、あそこで技術の習得のために時間をしっかり割けたことは、その後の内容に集中させるために効果的であったように思います。

更に目的という点で、参加してくれたある親子の話を聞きました。姉妹2人とお母さんで参加していた親子が、ある技ができたときに称賛していたら、そのお母さんから上のお子さんが運動が苦手で学校では周りの子についていけず、不登校になっているという話を聞きました。技ができたその子はすごく嬉しそうで、お母さんも久しぶりに子どもの運動で得た満足げな表情に涙を流していました。子どもに運動を好きになってほしいと参加を決めてくれたお母さんの気持ちを感じ、お子さんにもこれをきっかけに自分に自信がついて、学校に復帰してほしいという思いがわきました。

全体を通して、目的は人それぞれだけど、とにかくのきっかけになる、熱中する経験をする、そんな要素が運動にはあると思いました。今後の進路に迷ひにあたって、教えるスポーツという枠を超えて、楽しむ・人と人を結びつけるツールとしてのスポーツに関わる、主催する立場であれたらいいなと思いました。

教職実践演習における授業の実践例

- ①情報番組に学ぶ・フィッシュボール ②constellation (例 学生のICT利活用能力の確認等) ③実践することを中心として



「実践すること」で、自分たちの学びを社会と価値を共有する形で改めて見つめ直すことができればと思います。資質・能力ベースでの探究的な学びには、「実践すること」から始まり、「さらに」「そもそも」「やっぱり」「どうしたら」などへと進む「応用から基礎へ」と学びを円環させる考え方を育む機会になればと思います。

FD 教職実践演習

教職実践演習における授業の実践例 ～分子機能生命科学専攻の例～

理科教育講座 上野 裕則
(自然科学コース 分子機能生命科学専攻)

FD 教職実践演習

1. 授業目標
2. 授業の方法
3. 教育現場での授業観察
4. 模擬授業の様子
5. 今後の展望(ICTを活用しよう)

FD 教職実践演習

授業目標

特に教員に必要とされる資質能力について、次のテーマからとらえ直し、不十分な点を補完し、生涯にわたって個々が取り組んでいくべき課題を明確にすることを目標とする。

1. 教員の使命や責任を自覚し、**自発的・積極的に自己の課題を認識し学ぶ姿勢**を養うこと。
2. 他の教員との協力や保護者・地域住民との連携の重要性を理解し、**対人関係能力**を養うこと。
3. 子どもの発達状況に応じた**適切な指導に基づく学級経営の基礎**を修得すること。
4. **教科内容等の的確な指導力を**身に付けること。

FD 教職実践演習

授業計画・方法

- ①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項 → **学校見学**
- ②社会性や対人関係能力等に関する事項 → **学校見学、模擬授業**
- ③生徒理解や学級経営等に関する事項 → **学校見学**
- ④教科内容等の的確な指導力に関する事項 → **模擬授業**

上記を主たる項目として、少人数での**グループ討論・ロールプレイング**等の実践を通じて、教職に必要とされる知識・技能を確認・修得していく。さらに、教育現場の現状に即した実践(適宜、**模擬授業、学校見学**等)を踏まえて、教育実践能力の基礎を確認、修得していく。

FD 教職実践演習

学校教育+各専攻

共通

授業観察+協議会 * 愛知県立半田高等学校①

授業観察+協議会 * 愛知県立半田高等学校②

授業観察+協議会 * 刈谷市立雁が音中学校

指導案作り、添削 指導案を作り、生徒間で添削し最終版を作る

模擬授業 できた指導案を基に模擬授業を行い、その後反省会

FD 教職実践演習



愛知県立半田高校

探究活動の授業の様子

探究活動で生徒が研究を行い、学生が気づいた点や改善点などを指導。

その他

* 知多地区生徒探究発表会
* 通常の授業

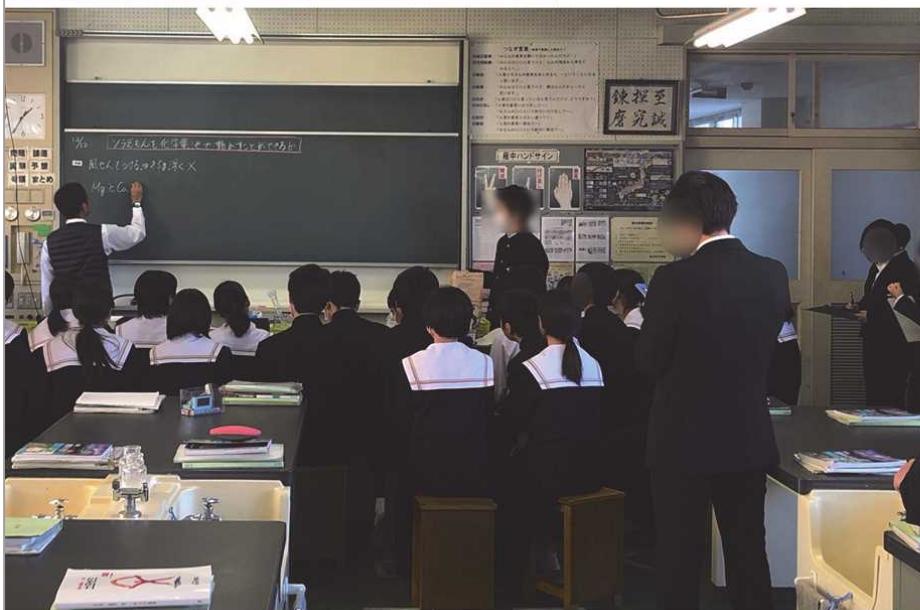
FD 教職実践演習



FD 教職実践演習



FD 教職実践演習



雁が音中学校

理科授業観察の様子

実際の授業の様子を拝見させていただき、この後の協議会で授業についての質問等を行った。

FD 教職実践演習

学生の感想

○目的を達成するためにどのような工夫が必要なのか、どのような操作を行えばいいのかなどの予想を生徒自身で考え、その考えを他の生徒と共有しながら進めていくことで科学的思考を鍛える授業であり、**答えのない問い合わせに対して生徒が考へていき、正解を求めていく形**であった。

○実験中では、教師は危ない実験はしていないか、また困っているグループがいた場合には、どのような実験を行いたいのかを生徒から聞き、**生徒が想像しやすいようにアドバイスをして**いた。

○単元の発展段階における**アクティブラーニング**は、その単元の基本的な知識を生徒が学んでいる状態で授業を行うことができるため、**生徒自身で考え、他の生徒と意見を交流しながら目標に対して考え方を進め、深い理解に繋がっていく**が、通常の授業においても生徒のもつている日常生活における基本的な知識について科学的に考えさせることでアクティブラーニングに近いことを行うことができることに気付くことができた。

FD 教則

理科(生物)学習指導案		指導教官 指導者	9. 本時の指導			
1. 日時 12月28日 (金曜日) 3時間目		①本時の目標				
2. 学級 8年生組		・触媒や酵素の化学変化を促進する性質を理解する。				
3. 場所 理科実験室		・実験から触媒作用があるかどうかを判断する事ができる。				
4. 使用教材 教科書『高校生物基礎』実教出版、授業プリント		②準備・資料				
5. 単元 1章2節 細胞とエネルギー		教科書 実教出版『高校生物基礎』				
6. 単元の目標		授業プリント				
①触媒や酵素の化学反応を促進する性質を理解する。		試験管4本、試験管立て、水道水、海砂、二酸化マンガン、生の肝臓片、焼いた肝臓片、3%過酸化水素水、茶包紙、やくさじ、ビンセット、ビペット、綿棒、チャックカマン				
②実験から触媒作用があるかどうかを判断する事ができる。		③本時の指導計画				
7. 単元について		時間	学習内容	学習内容	指導上の留意点	評価の観点
(1)教材範囲:触媒反応の中でも教科書で取り上げられている過酸化水素水と二酸化マンガンやカタラーーとの反応を実際に観察する事で触媒の性質を理解する。また、それらがどのような特徴を持って生体内で利用されているかを理解する。		導入3分	3分	触媒の働き (復習)	酵素は触媒の一部であり二酸化マンガンは酵素でない事を因用いて確認する。	知識・理解
(2)生徒範囲:1年生で高校生活が始まったばかりであるため生物では初めての実験となるグループの中どのように役割分担をしていくか、どのように協力していくかを実験を通して身に付けるように進めていきたい。また、実験結果に対する考察をグループの中で討論する時間を設け、話し合いを通じて生徒同士の交流が活発になるようにつなげていきたい。		計3分		触媒の性質と酵素の性質を説明する。		
(3)指導範囲:触媒が反応の化学反応を促進し、触媒自身は変化しない事を焦点に置いて進めたい。使った触媒を再利用できる点からどのように反応が起こっているかをグループの中で話し合って全員が理解できるような協同する力を身に付けてさせる。		展開14分	7分	1. 酵素の働きを生体内での過酸化酵素を例にとって説明する。	三大栄養素が糖質、脂質、タンパク質であると確認する。	知識・理解
8. 本時の位置と指導計画			7分	・プリントを用いて各酵素の名前を埋めさせる。	肝臓が消化に関わっている事での授業で扱う実験とのつながりを意識させる。	
1章 2節 細胞とエネルギー (8時間)			計17分	2. 肝臓の働きを説明し、解毒作用の一につき過酸化水素の分解反応があることを説明する。	過酸化水素が生体内で有害物質となることを説明し、後の実験で取り扱うときに注意するようになる事を狙う。	
酵素 1時間				・プリントを用いて空白部分を埋めさせる。	肝臓と実験で用いる理由をカタラーーが良く発見しているから、と説明する。	

時間	学習内容	指導上の留意点	評価の観点	時間	学習内容	指導上の留意点	評価の観点
展開21分 (実験)	1分 3. の上の実験器具が揃っているかどうかを確認する。 ・ライターや綿棒の使い方 ・ビンセットやガラス棒は混ざないようにする	過酸化水素が手や目についてしまった時の対処法を改めて確認する。	観察・実験の技能	まとめ5分 2分予備	3分 代表者に実験の考察部分を発表させる。 発言を口頭でまとめて、生徒に自分の言葉で改めてまとめさせる。	プリントに沿って考察をする。宿題に実験結果のまとめを記入させる。	思考・判断・表現
6分	5分 4. プリントの使い方を確認する。 ・実験手順を読み ・役割分担を行なう ・試験管の様子をスケッチし、観察の記録を取る ・一通り終わったらグループで考察を行う ・実験後に代表者が考察を発表する事を説明する。	何時までに終れば良いかを把握させ、時間内に考察まで進められるように声掛けを行う。		時間外 計50分	時間外 プリントの裏の自己評価と感想を記入させ、宿題として提出させる。	実験が早めに終わっている場合は時間が来る前に切り上げてプリント裏の自己評価や感想を記入させる。	
16分	2分 役割分担 二酸化マンガン (一人目) 2分 海砂 (二人目) 2分 生の肝臓片 (三人目) 2分 焼いた肝臓片 (四人目) (15分で実験が終わるようにを目指す) 観察の記録と考察を記入する。	生徒に起きた反応や泡の様子などをプリントに書かせる。	知識・理解・評価	余る場合は社会でどのように使用されているかを紹介する。			
21分	5分予備	廻り回る 観察の記録と考察を記入する。	観察・実験の技能の評価				
計42分	率分担して行うと短縮できるのでここまでかけた時間次第で実験操作の指示を変更する。	相談していかなかった場合グループ内で会話をするように声をかける。	A 酵素による触媒反応について、正しく記入したプリントを提出した。 B 酵素による触媒反応について、多少の記入漏れがあるプリントを提出した。 C 酵素による触媒反応について、多くの記入漏れがあるプリントを提出した。				

動画

他の学生からの評価

単元：細胞とエネルギー（）
導入部分から展開部分の触媒、酵素の働きから生体内の酵素の働きについて説明する部分で生徒に答えさせる場面が少なく、一方的に話す形になっていたため、生徒に質問したり、プリントを穴埋めなどにして答えさせたりして生徒が参加できる授業にした方が良いと指摘した。プリントに書かれていないところで板書が多く、メモする空きスペースがなかったため、メモ用の欄を作るか、生徒が書きやすいように図を加えて穴埋め形式にするかの工夫をすると良くなると指摘した。

また、実験の際に過酸化水素水が付着してしまったときにはどういう対応をするのかなど実験を安全に進めるための注意喚起を加える必要があると伝えた。板書を行う際に黒板の方を見ながら話していく聞こえづらい部分があったため、話すときは生徒の方を向くように配慮することが重要だと伝えた。実験の考察の部分で肝臓のカタラーゼが酵素の働きをしているところまで生徒が考えつくのが難しそうだったため、問い合わせの仕方を変えるなど生徒がその考えにいくような発問の仕方をすると、学習目標の達成につながると伝えた。

今後の展望

○ ICT活用について

1. 感染症の対策としての**遠隔授業の必要性**。
* 回線の問題、生徒との双方向性などの課題。
2. 授業の効率化の有力なツールとしてオンデマンド型の**映像・動画教材**を必要に応じて使用する。
* 教科書では理解できない動物の動きや物質の色の変化等。
3. 今後、学生にもICTの有効活用や**パソコン、iPad等を利用した模擬授業**も行うよう勧めたい。



当日の配布資料

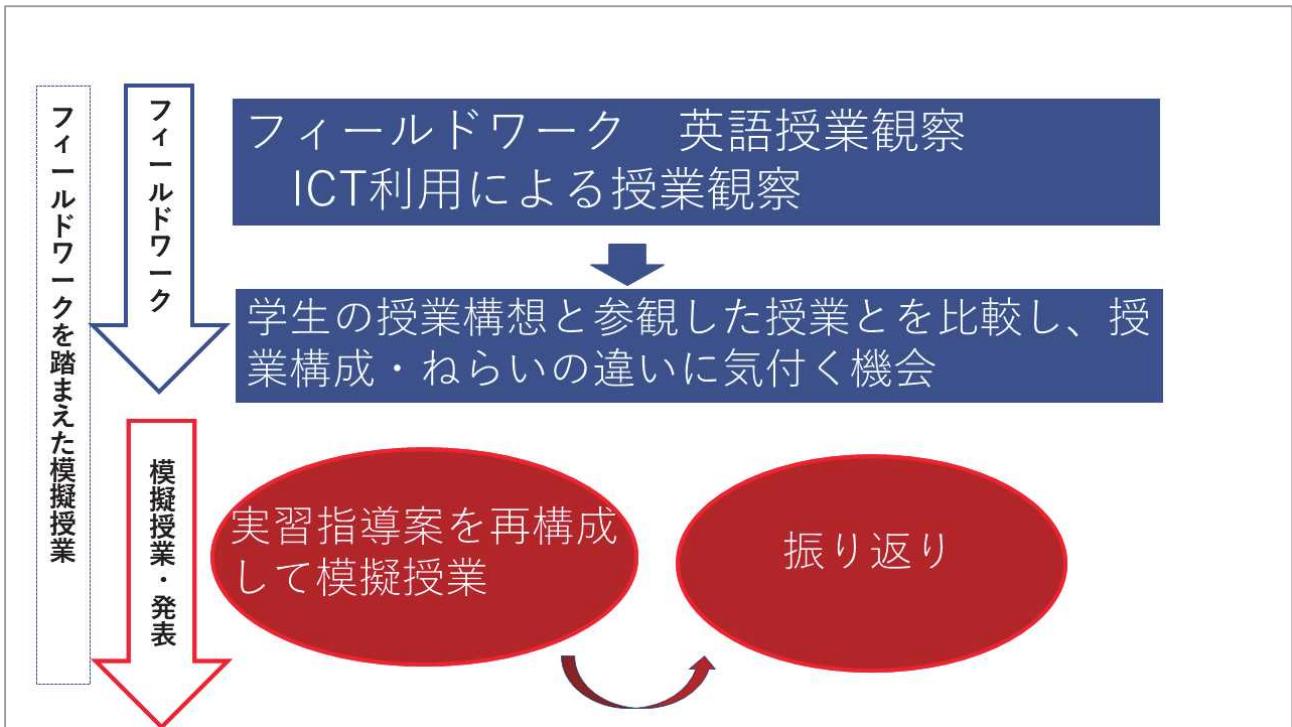
「フィールドワークを踏まえた模擬授業」

フィールドワークを踏まえた模擬授業

外国語教育講座 建内 高昭

もくじ

- 1 学生による授業構想を事前に準備
- 2 フィールドワーク授業観察、学生による授業構想と比較
- 3 実習時指導案に修正・加筆
- 4 グループごとに模擬授業を行う
- 5 振り返りシートを書いて共有する



フィールドワーク 第1段階 授業構想

- 1. 授業参観で扱う内容を事前に各自で授業構想を用意する
- 2. 学校現場フィールドワーク「英語授業」を参観する。
- 参観を通して、熟練した教師の授業展開・生徒とのやり取りを考える機会を設けて、「**参観前授業構想**」と「**参観後**」で、各自での比較・振り返りを行う機会を作る。
- ↓ ↓ ↓
- **振り返りを基に、新たな視点を得る**

観察授業後の学生レポートより

- 自分の構想案は、**教科書を教える指導案**であり、**教科書で教える内容**にはなっていない
- 「**教師は英語を進んで使用すべきである**」という言葉です。英語を話すことに対して、不安に感じている子どもたちもいる。自分ではどうしようもできない。でも、何とか助けてあげたい。だったら、失敗するのが人間なのだから、教師である私自身も英語を話すという不安を恐れずに子どもたちと向き合おう。Y先生のように子どもたちに愛情を注ぎ、間違いを恐れない姿勢で子どもたちと向き合う事の出来る教師になりたいと強く感じました。
- T先生が最後におっしゃっていた「**英語の授業で学んだことは、他の教科の授業にも活かせる**」という言葉です。Number counting のアイスプレー クも社会の都道府県や算数のかけ算にかえても使用できるということを聞いて、はっとさせられました。

フィールドワーク第2段階 授業分析

- 授業者が語る活動の意図とねらい、臨機応変な対応
- 学生による授業構想と実際の授業との比較
- 捉える観点：学生は教科書内容は押さえている。参観から生徒の反応、生徒の活動、授業者の技量など
- 見逃される観点：授業手順の意図、活動と活動のつながり（建内2012）
 - ↓
 - 指導が生徒にとってどのような意味を持つかの吟味

授業分析して提示 — 音読を考える —

暗唱を狙い 8回も 15分間で本文を音読！！

Procedure	10min	20min	30min	40min	50min
g r e pair work e t	m o feed d back e Class l	Intro Kyusu Voc	Comprehension	TEXT Expansion	Chorus Reading(x2) Buzz Reading (x1) Read & up (x1) J→Eng(x2) Eng→J(x1) Pair Work Recitation (x1)
Simple Structure	Oral Interaction	教科書 理解	()回 音声による発話 ()までできる活動	本文を終えて、Reproduction	Writing Semantic Mapping Pair Talk Writing

学生は4回程度の音読で十分だと考えていた！

Nang & Takeuchi (2020)を改編

分析で視点を共有する

- ・参観授業では、授業者のねらいと活動に一貫性がある。一方で参観する学生は、その活動と次の活動との関わりや授業展開にまで気を配ることが難しい。
- ・指導案手順が同じであっても、どこに授業者が授業のねらいをおくかで、あるいは評価をどう捉えるかで違いが生まれやすい。
- ・児童の動きを視野に入れた授業手順へ

ICTによる授業観察 2020年11月

- ・参観授業内容を学生が自分で指導案を用意する。 (11月30日までに準備)
- ・フィールドワーク：県内中学校英語授業を2クラス観察する。
- ・ZoomによるLIVE授業 (11月30日 9:50～11:40)
- ・授業後に、担当者から簡単な説明。
- ・各学生は、「自分の指導案」と参観授業の「授業手順・構成及び授業のねらい」と比較し、新たな観点への気づきを促す。

模擬授業の事前段階：再構成

- ・「教育実習研究指導案」を再構成し、指導案に加筆・修正を加える  「参観授業での学び」を生かす
- ・加筆・修正した項目についての赤字、併せて修正した意図・工夫を明記する。
- ・観察実習を通して、「新たに生まれたアイディア」及び「観点」を加える。

模擬授業 学内でグループごと

- グループごとに修正指導案を基にして発表を行う。
- 各自の持ち時間 15分間
- 質疑応答 10分
- 模擬授業内容についてグループ内で討論を行う
- 改めて授業案を振り返り、発表者ごとの修正項目を聞く、話すなかで理解を深める機会を得る。

模擬授業振り返り

- 「模擬授業」を通して、グループごとに、以下の**3点**について話し合いを行う。
「理解が深まること」
「もっと調べたいこと」
「今回と関連はないが気になること」

グループ内で
の振り返り

まとめ

- ・「フィールドワーク」を切り口に、模擬授業へ
- ・① 「学生の授業構想」と「参観授業」の比較 **学生**
- ・② 「授業分析」による気付き **大学教員**
- ・③ 実習授業内容を「修正し」再構成 **学生**
- ・④ 模擬授業「グループ内で振り返る」 **グループ**

引用文献

- Nang Mo Hline., & TAKEUCHI, T. (2020) Class Observation by the Use of COLT-Communicative Orientation of Language Teaching and the Application of Corrective Feedback in English classroom at one of the Schools in Japan. 『愛知教育大学教職キャリアセンター紀要』 5, 157-164.
- 建内高昭 (2012) 「学生が捉える英語授業—教育実習を通して—」 『中部地区英語教育学会』 41, 147-152.